

北九州市立学校 校務DX計画

1 現状

本市では令和3年3月にMicrosoft Teamsを導入し、ファイル共有、チャット機能、ビデオ会議システムなどを活用している。これにより、学校からのアンケート提出、オンライン会議や研修、教材共有など、多岐にわたる業務で利用している状況である。

令和6年9月からは、全中学校にデジタル採点ソフトを導入し、段階的に教職員の負担軽減に取り組んでいる。

保護者向けの取り組みとしては、紙で提出していた「家庭調査票」をオンライン化し、電子メールや電話、紙媒体で行っていた学校とのやり取りには保護者連絡アプリを導入するなど、保護者の負担軽減にも努めている。

以上のように、本市ではクラウドツールの活用が徐々に進んでいる状況である。

しかしながら、「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」（令和6年3月29日公表）による本市の自己点検結果によると、依然として、業務にFAXを使用している状況や、保護者や外部とのやり取りで押印・署名が必要な書類が残っていることが課題となっている。

また、学校ネットワークを、個人情報等を取り扱う「校務系」と、外部サービス等を利用する「学習系」に分離しており、教育データをシームレスに活用できないといった課題も存在している。

2 校務DXの取組

(1) クラウドツールの活用

令和5年9月から教職員全員に校務用の個人メールアドレスを付与したところであるが、あまり活用が進んでいない。今後はFAXに代わるものとして活用を進めていく。

(2) FAX及び押印の見直し

国は「FAXでのやり取り・押印を原則廃止した学校の割合」を令和7年度に100%にするKPIを設定している。

本市においては、「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」の自己点検結果によると、「業務にFAXを使用していますか」の質問では「使用している」が97.9%、「保護者・外部とのやり取りで押印・署名が必要な書類はありますか」の質問では「ある」が87.2%と高い数値を示している。

この状況を改善するため、本市では令和6年10月に、FAXを使った業務や押印が必要な書類の洗い出しを実施した。洗い出した結果を基に、クラウドツールを活用した業務フローの再構築や業務廃止の検討を進める。

(3) 校務システムの更改と次世代システムの移行

①校務系及び学習系ネットワークの統合

校務系と学習系に分離したネットワークについて、ゼロトラストセキュリティの考え方に基いてネットワーク設計を見直し、クラウドサービス等による利便性の向上とアクセス制御等による十分なセキュリティ対策がなされた校務系・学習系ネットワークの統合を図り、教職員の働きやすさの向上と教育活動の高度化を実現する。

②校務支援システムのクラウド化

保護者連絡アプリ等のクラウドツールと連携し、教職員の事務負担軽減やコミュニケーションの向上ができる環境を構築するため、校務支援システムをクラウド化すべく、先進自治体の調査やソリューションの研究を行う。

③教育ダッシュボードの創出

デジタルドリルや校務系システムなど、クラウドやオンプレミス環境にある教育データの連携方法やインターフェース構成を検討し、校務システムの更改と次世代システムの移行時に、データを統合・可視化する教育ダッシュボードを構築して授業や事務の改善に活用する。